
猫耳の生えた姉

朋也

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

猫耳の生えた姉

【EZコード】

N2242V

【作者名】

朋也

【あらすじ】

猫耳シリーズ第2作

ある朝、弟は姉の頭についた妙なものに気付く。
しかも姉には尾も付いているではないか！

姉と弟の新しい生活が幕を開ける。

驚きの朝

「…眠…い

田覚ましが無理やり僕を起しにやつた。

ああ…また朝がやつてきたのか…

眠い目をこすりながら田覚ましを止めて姉ちゃんの部屋に行つて起
こじに行く。

「姉ちゃん朝だよ～」

「ふあ～…眠い…」

「姉ちゃん…その頭につけてるの何？」

姉ちゃんは頭に奇妙なものをつけていた。

「何もつけてないわよ～…眠む…」

「これだよこれ～」

そう言つて姉ちゃんの頭にあるものを引っ張る。
「痛つ…何すんのよ…痛い?どこが痛いの?」

二人「…………」

僕と姉ちゃんの間ですごい長い沈黙が続いた。

そして姉ちゃんは手鏡を見て

「何これ?」

そしてソレを思いつき引つ張る

「いだあああ～～い、」

「だ…大丈夫！？」

僕はあわてて

「と…とりあえず病院に！」

なぜ病院に行くなんて答えが出たんだろう

「待つて…症状はこれだけじゃないみたい…」

そう言って姉は後ろにあるものを前に出した。

「尻尾…？」

「そうみたい…」

「ほ…僕にも…!?」

あの朝から3日ぼびたつた。

「一応猫耳と尻尾を隠して病院には行った。」

「それでどうだった?」

「ここいら辺の地域で増えてるみたい。世界でも少ない伝染病だつて。」

「へえ…で、伝染率は?」

「少ないらしくよ…でもなぜかピンポイントで一つの地域ではなくさんはやるんだって。」

「僕パソコンできるからあとで調べといてあげるよ」

「ありがと」

でも多分その影響で昨日から学級閉鎖。 原因は先生も校長先生も話さない。

インターネットで調べてみた。

資料はあまりにも少なくその中で英語の文章が多くった。

でも調べて驚いたのは普通の耳が機能しなくなり猫耳が機能するようになることだ。

気が付いたらもう寝る時間。

おっとその前に出張中の両親に電子メールで連絡しておこう。

「リンクを張つて…と」

驚かないようにこの地域のこと…あ、学校から学級閉鎖の連絡が来て知ってるかな?」

でも一応書いておいた。

そして朝

あれから姉と同じ部屋で僕は寝ている。
体にもしも異常があつたりしたらと考えて。
姉はいいよ…別に一緒にやなくて…といつが一応こうしている。

僕「ふあ～朝だ～」

僕「でもどうせ学校は再来週まで休み～長～～～～」

姉「おはよ…」(固)

沈黙が続き姉は驚いた顔をしている。

僕はとっさにまさか…と思つて頭を触る。

でもこう時に限つて悪運はつづいてやつてへる。

僕+姉「猫耳…？」

姉「私が原因…？」

僕「大丈夫！それはたぶんないと思つーもう4日も一緒にいたんだ

し！」

姉「そつか…」

一応、姉を安心させることはできた。

僕+姉「猫耳兄弟か…？」

とかそんなこと言つてゐる場合ではなかつた。

明日の希望を。

「僕も病院につたよ。姉ちゃんと同じ」と言われたよ。」

「それで？」

「でも、新しく聞いたのは治療法がないということ。」

「えつ・・・」

「でも切除手術をした人の例もあるんだって。でもできたのは尻尾だけで耳は聴覚に支障が出るから出来なかつたらしいよ。尻尾も跡が残つたらしいし。」

姉「でもそんな人がこの地域にたくさんいるってことだよね。とうより病気につかつてない人がおかしく思われるくらい増えてるらしいし。国が対策を始めたらしいし。」

僕「もう戻れないのかな…」

姉「そんなこと思つちゃだめだよ！そんなこと思つたら本当に戻れなくなるよー」このままでいいつていうの？希望は捨てちゃだめだよー！」

僕「姉ちゃん… そうだよね… そうだよーこの病気を治すという希望が完全になくなつたわけじやないんだー！」

その後この病気が広まるのを防ぐことはできた。
だけどかかった人たちが元に戻ることはなく、治療法もいまだない。
原因も不明で健康に影響もないということでふつうにみんな暮らし
ている。

明日の希望を。（後書き）

短かっただけどこれで終わりにさせさせていただきます。
短い期間でしたけどありがとうございました！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2242v/>

猫耳の生えた姉

2011年8月24日21時25分発行